

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 推進教員を中心に1年間を通して、各種会議や研修会において、人権教育の推進状況や児童の様子等について情報共有の機会を設け、全職員での共通理解が深まった。
- 教育活動を人権の視点で見直し、児童の自己決定の機会を広げ、参加意欲を引き出せるあり方へと改善を図った。
 - ・マラソン大会のあり方を改め、従来同様に速さに挑むチャレンジコースと、走ること自体を楽しむエンジョイコースを、各自で選択できるようにした。
 - ・家庭学習のあり方を見直し、児童が自分で学習内容・方法を選択できる場面を広げた。
 - ・学習の進め方を児童が選択できる授業のあり方について、研究を深めた。
- 授業研究により、教職員間に新たな人権課題とその授業展開についての共通理解が深まった。
- 不登校傾向児童やその保護者の不安や困り感に寄り添い、面談を重ねることで、不安の軽減と精神面の安定につなげ、学習への参加に導くことができた。
- 校内巡視等により把握した、児童の気になる点や教育活動の改善すべき点について、常に情報共有を図り、問題行動の未然防止や校内教育環境の改善を図ることができた。

(2) 課題

- 現代社会においては日々新たな人権課題が生み出されており、それをどのように人権教育カリキュラムに位置付けて取り扱っていくかが課題である。どのような人権課題に出会っても、正しく判断できるよう、人権教育を通して児童の人権意識を育て人権感覚を磨いていかねばならない。
- 子どもの不登校や児童間のトラブルに起因して、精神的に不安定になる保護者が増えている。そのような保護者にいかに対応していくかも課題である。まずは、教育活動を児童の人権を尊重する視点で改善を重ね、誰もが安心して過ごすことができる学校、誰もが安心してわが子を登校させることのできる学校にしていかなければならない。